

平成31年度 (2019年度) 県立真壁高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道の校風の下、全ての教育活動をとおして、教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献する人間をはぐくむ。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>1 基本的生活習慣の確立や規範意識について課題のある生徒が一部に見られた。その結果、退学や転学する生徒が多いことの要因となっている。これまで以上に教育活動全般をとおして、成就感や自己有用感を育む必要がある。</p> <p>2 TT授業や習熟度別学習を全ての学科で導入し、また、アクティブ・ラーニング型等の工夫した授業を行った。さらに授業を工夫改善し、基礎学力の定着を図るとともに、進学を希望する生徒の学力向上に向けて取り組む必要がある。</p> <p>3 進学・就職合わせて98%の進路決定率であった。今後は、3年間を見通した進路指導の一層の充実を図り、主体的に進路選択する能力や態度を育成する必要がある。また、各年から4年制大学への進学者を輩出する取り組みの必要がある。</p> <p>4 クラスマッチ、晨光祭、真壁のひなまつりクリーンアップ等の学校行事への積極的な参加が見られた。活力ある学校づくりのためには、部活動の一層の活性化は不可欠である。このために部長会議を充実させる等して、魅力ある部活動について検討していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの励行 ・基本的生活習慣と授業規律の確立 ・安心安全な学校づくりの推進 	<p>① 登下校時、授業・実習、部活動等を通して、場に合ったあいさつの励行を促す。</p> <p>② 生徒のよい面を認めて伸ばす指導を基本にする一方、毅然とした粘り強い指導を徹底し、基本的生活習慣と授業規律を確立する。</p> <p>③ 生徒観察、面談等を通して生徒理解に努めるとともに、家庭や関係機関等と連携していじめのない安全な学校づくりを推進する。</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合った授業の工夫 ・基礎学力の定着 ・自学自習の態度の育成 	<p>④ 習熟度別指導や少人数授業、TTによる指導を拡充するとともに生徒の実態を踏まえた「アクティブ・ラーニング型」の授業を積極的に取り入れる。</p> <p>⑤ 各教科との連携を密にして、学年全体で生徒一人一人の成績状況や推移を把握して、基礎基本の定着を図る。</p> <p>⑥ 更なる学習意欲の向上を目指して、補講や個人指導を実施して自学自習の態度を育成する。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の計画的・系統的な啓発 ・地域を担う人材の育成 ・自分で考え表現する力の養成 	<p>⑦ 進路だより、学年集会や進路講演会等を活用して、計画的・系統的に進路意識の啓発を図る。</p> <p>⑧ インターンシップや地域貢献活動などの体験的活動の実施、地域人材の積極的活用、資格取得の奨励等を通して、勤労観や職業観の醸成を図り、地域を担う人材育成を進める。</p> <p>⑨ 社会においては場に応じたコミュニケーション能力が重要であることに鑑み、自己認識を深める機会を積極的に設けるとともに、自分で考え表現する力を培う。</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組む態度の育成 ・特別活動への積極的な参加の奨励 ・豊かな心を育む教育活動の充実 	<p>⑩ 学校行事や生徒会活動に生徒が主体的に参加・運営し、成就感や自己有用感を高められるよう支援する。</p> <p>⑪ 部活動への加入を奨励し帰属意識を高める。また、農業関係高校として各種コンテストや発表会等への積極的な参加を奨励する。</p> <p>⑫ 校内美化の徹底及びボランティア活動・社会教育活動等の推進により、生徒の自主性と豊かな心を育む。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携した教育活動の活性化 ・教育活動の積極的な情報発信 ・創意・工夫を生かした事業の推進 	<p>⑬ 学校行事、学校説明会、授業公開等を通して、保護者や地域の方々に本校の教育活動を理解してもらい、協働して本校の一層の活性化を図る。</p> <p>⑭ 生徒の活躍等を学校ホームページにタイムリーに掲載するなど周知・広報に努める。</p> <p>⑮ 「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」を精力的に展開する。</p>	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度への 主な課題
教 科 指 導	国 語	基礎学力の向上を図る。	読み・書き・表現に重点を置き、豊富な語彙の習得を目指した授業展開を行う。(全年) ④	A	B ・進路を意識し、漢字検定等の資格取得や作文、小論文の指導を充実させる。 ・教員間での情報共有を密に行い、授業改善を図る。
			漢字検定等の資格取得を推奨し、取り組むことで漢字能力や語彙力の向上を図る。 ⑥	C	
	進路指導の一助とし、必要に応じた作文・小論文の指導を行う。併せて言語による自己表現力を高める。(1・2・3年) ⑥	C			
	授業内容の研鑽に努める。	授業内容、進度、教授・評価方法等について教科内で研究を積み、情報の交換・共有を図る。 ④⑤	B		
	地 歴 公 民	基礎学力の向上を図る。	小・中学校で学習した内容の復習を織り交ぜながら授業を展開する。 ⑤	B	B ・系統的な学習ができるよう、指導計画に基づいた授業を実践する。 ・体験学習など、生徒の意欲を喚起するような工夫をする。
			教科書の内容を定着させるため、プリントに繰り返し取り組ませる。 ④	B	
		社会的事象への関心を高めさせる。	授業の中でICT等を活用して新聞記事やインターネットのニュースをとりあげ、時事問題を積極的に紹介および解説する。 ⑨	B	
		進路を見据えた授業を展開する。	各学年の進路活動と関連させ、進路意識の向上や就職・進学試験につながる実践的な授業を展開する。 ⑦⑧	A	
	数 学	基礎学力の定着	中学校で学習した内容の復習も授業に取り入れ、基礎学力が定着するように練習する時間を確保する。計算問題を定期テストに多く出題し、基礎・基本の徹底と計算力が定着するように継続して指導する。 ④⑤⑥	A	B ・コンピューターを活用してICTの授業活用をさらに充実させる。 ・教員間の授業観察を通して、指導技術の研修に努める。
		授業の内容理解の向上	ICTを活用し、生徒の授業理解の定着を図る。特に、理解の不十分な生徒には机間指導と補足プリント等で個別指導に努める。第1学年農業科・環境緑地科・食品化学科においては、ミックスホームルームで習熟度別授業を展開する。また、普通科においてはTTで授業を実施する。 ④⑤	B	
		分かる授業の展開	授業内容を精選し、主体的・対話的な学習活動を取り入れ、生徒が主体的に学ぶことのできる授業を工夫する。また、理解力の高い生徒には、補習や追加課題等を実施し、更なる理解の向上に努める。 ④⑤⑥	B	
	理 科	基礎学力の向上を図る。	日常生活と関連させながら基本的事項を確認し、基礎学力の定着を図る。 ⑤	B	B ・さらに実験や体験的授業の回数を増やせるように協議・工夫を重ねていく。 ・基礎学力の定着と進学対応について体系を整えていく。
小テスト・ノートチェック・対話を通して、理解度を把握し、個に応じた理解と学力の向上に努める。 ⑥			A		
興味・関心を高める授業、わかる授業の実践に努める。		実験・観察やICTの利用に取り組むとともに、利用環境の整備をしていく。 ④	C		
		生徒の実態を踏まえた授業展開を常に意識し、研修や教科での協議を行っていく。 ⑤	B		
保 健 体 育	保健の学習に興味を持ち、生徒が主体的に学ぼうとする授業を目指す。	喫煙・飲酒の害、性感染症など、生徒にとって身近な話題を、時事的なニュースと関連づけて興味・関心を高め、心身の健康について自己の立場から課題を明確に出来るようにする。 ④	A	B ・保健では、毎時間授業後にワークシートを記入し、学習成果をフィードバックできた。 ・体育では、集合整列や服装面で乱れが見られたため、次年度の課題としたい。	
		ワークシートの活用等で本時の学習をフィードバックし、知識の定着を図る。そうした知識の積み重ねにより保健に関する関心を高め、実生活に応用しようとする態度を育てる。 ④	A		
	生涯を通じたスポーツライフの基盤をつくる。	体づくり運動を予備運動として取り入れ、適切な運動量を確保し、基礎体力の向上を図りながら体を動かす楽しさを実感出来るようにする。 ④	C		
	基本的な生活習慣の定着や運動意欲の向上を図る。	速やかな整列・集合、挨拶、ジャージ着装を徹底し、授業に臨む基本的な態度を身につける。 ①②	C		
体力テストや持久走などの記録を生かし、生徒の意欲を高めていくような工夫をする。 ④⑥		C			

	音楽	歌う喜び, 演奏する楽しさを味わう。 音楽の基礎的知識の習得	表現を工夫しながら歌う喜びを感じ取らせるとともに, 様々な楽器演奏の基礎技能を習得し, 演奏する楽しさを味わわせる。 ④⑤⑥⑧⑨ 音楽の基礎的な音楽理論の学び直しをするとともに, 保育関係などの進学にも対応する知識を習得させる。 ④⑤⑥	B	B	・定期考査を実施し, 知識の定着を図る。 。伝統音楽は多くの生徒が体験できるようにしたい。	
		地域の伝統音楽に親しむ。	人形浄瑠璃の鑑賞や体験を通して, 地域に根ざした伝統音楽に親しむ ④⑧⑨⑬⑮	B			
教 科	外国語	基礎学力の向上を図る。	音読の指導と小テストを行い, 英語の読む力と自信をつけさせる。 ⑤ 語彙指導や基本文の暗記テスト等を実施し, 書いたり話したりするための基礎力を育成する。 ⑤ 英語検定の合格を目指し, 個別指導を行う。 ⑥	B A A	B	・一人一人の能力に合わせた授業作りに努めること。 ・授業のバリエーションを工夫し, 生徒の興味・関心を引きつけること。	
		英語で話す喜びを実感させる。	ALTと連携し, 英語で話す機会を多く設ける授業の展開をする。 ④ ペアワークやグループワークを通し, 生徒が自ら学び合う機会を多く設ける ④ 発音やコミュニケーション能力を問う課題を課し, 英語力の向上を目指す。必要に応じて個別の指導を行う。 ④⑤	A C B			
		基礎学力の向上を図る。	学習内容を通して, 生活の身近な問題を解決していく力を身につけさせる。 ②⑤⑥	A			
		実験・実習を充実させる。	家庭生活に関心を持たせるとともに, 生活について深く考える力を養えるようにする。また, 環境問題や地産地消を理解し生活に役立てられるようにする。 ⑤⑥ 体験学習を通して, 生徒の学習意欲を高め, 自分自身の家庭の生活を見直すことができるようにする。 ⑤⑥	B B			
指 導	情報	情報活用の実践力を養う。	実習を通し, コンピュータやソフトウェアの操作の習熟に努める。 ④ 多様な情報について, テーマを設定するなどして適切に処理をできる力を養えるようにする。 ④ 情報社会での問題点についても, 実習の中で理解が深められるように努める。 ④⑤⑥	B C B	B	・コンピュータを使用した実習に多くの時間をかけました。次年度は, 教科書のポイントをしっかりと学習させたい。	
		農業に関する情報を発信し, 地域社会の活性化を図る。 実験・実習を充実させ魅力ある農業教育を展開する。	農業科	授業の目標や到達点を具体的かつ明確にし, 座学と実習を連動した授業を展開する。また, 各学年において, 段階的な学習活動を確立し, 基礎・基本の確実な定着を図るとともに, 各コースの専門性を高める授業・実習内容の充実と進路決定に繋がる授業を展開する。 ④⑤⑥⑦⑧⑨			B
				GAP認証取得に向けて農場管理体制の見直しを図り, 食品衛生・労働安全・環境保全を柱とした農場運営に努める。また, 記録の徹底を図り, 生徒同士が教え理解し合い, 主体的に学習できる場面を提供する。 ⑨⑩⑪⑫			A
就職・進学に対応するプロジェクト学習や課題研究, 職業観を高めるインターンシップ等を実施し, 生徒が積極的かつ主体的に取り組める機会を増やして, 自己実現に繋げる。 ⑦⑧⑨	B						
生徒の活躍をタイムリーに学校ホームページに掲載するなど, 校外へのPR活動に努め, 地域活性の一助にするとともに生徒募集に繋げる。 ⑬⑭⑮	B						

教科 指導	農業		環境緑地科	実験・実習をとおして基礎的な専門科目の確実な定着に努める。①②⑤⑥	B	B	・実習後の事後指導に力を入れ、基礎的な知識・技術の習得を目指す。 ・生徒の主体性を引き出す授業を心がけ、学科内で指導体制を検討する。
				ティームティーチングやインターンシップ等による実験・実習を展開し、生徒一人一人の知識・技術の向上を図る。④⑥⑧⑨	B		
				充実したプロジェクト学習を指導・支援し、生徒が主体的に取り組める授業展開に努める。⑩⑪⑬⑮	C		
			食品化学科	生徒の安全に配慮した実験実習を充実させ、基礎・基本の定着を図り、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた生徒の学び合いによる知識・技術の定着を図る。④⑤	A	A	・引き続き生徒の自主性を引き出すし、積極的に活動で環境を整える。 ・積極的に資格取得を目指す生徒が少ない。教員間で資格取得について情報を共有・連携し、受験者の増加を目指す。
	地域人材を活用し、インターンシップや製菓コースの授業展開の充実に努める。⑧	A					
	生徒の自主性を引き出し、積極的に活動できるような環境を整え、地域を担う人材育成の素地を培う。⑥⑧⑨⑩⑪⑮	A					
	ボイラー取扱者及び危険物取扱者の資格取得を推進する。 情報処理各検定試験、フォークリフト等の受験者数の増加を目指す。⑥	A					
教 務			「学校を知る、地域を知る」プロジェクトと地域に根ざしたテーマによる「深い学び」プロジェクトの充実に努め、特色ある教育課程を推進する。④⑤⑮	A	B	主体的・対話的な深い学びの実践に向けた授業改善と教員相互の授業評価及び教科横断的な授業の取組を推進する。	
			一人一人の学習意欲を引き出すため、アクティブ・ラーニングによる授業改善と教育の質を高める学習評価の充実に努める。④⑥	C			
			教員間の連携を図り、生徒の学習活動を支援する。④⑤	A			
			教員研修の充実に努める。(アクティブ・ラーニング・人権教育等) ④	B			
	広報活動の充実に努める。	ホームページや学校案内パンフレットの活用による本校教育活動の積極的な情報発信に努める。⑬⑭	A				
生徒指導			積極的に生徒とかわりながら、生活習慣の向上や問題行動の防止に努め、立哨・巡回指導を継続して行っていく。①②③	B	B	一人一人と関わっていく機会を増やし、個人の把握に努め、個に応じた指導を行っていくことで問題行動の未然防止と自己指導能力を育成する。	
			保護者などと連携しながら、面談・集会・HR等を利用し、学校生活の改善や規範意識の向上を図る。①②③	B			
			交通事故の防止や日常生活における安全確保に向け安全指導を充実させる。また、警察署・交通安全協会等関連機関と連携し、講演や実技講習会を実施する。③⑬	B			
	交通安全教育の推進及び教育相談の充実に努める。	スクールカウンセラーを有効に活用し、支援を必要とする生徒に適切に対応していく。また、いじめを早期に発見・解決できる安心・安全な学校づくりの推進を図る。③⑨	A				
進路指導			各学年と連絡を密にし、進路ガイダンス・インターンシップ等の体験を通して、3年間を見通した体系的な進路指導を行う。⑤⑥⑨	B	B	次年度は「真高NEWS」を定期的に発行し、生徒への情報提供を積極的に行う。また進路に関して個別面談に力を入れて、個々の進路実現に努める。	
			進路説明会、到達度、適性検査等を実施して、生徒の進路希望の具現化を図る。④⑤	B			
			「真高 NEWS」を年5回発行し、積極的に情報を提供する。⑤⑩	C			
			面接指導、小論文指導、課外授業等を企画し、多様な入試形態に対応できる実力を養う。⑤	B			
			あいさつを励行し、服装・頭髪等を含め社会に出るための基本的態度を養う。①②⑤	B			
	ハローワークとの連携を図るとともに、企業訪問を積極的に行い、新規企業の開拓に努める。⑤	A					

特別活動	学校行事や各種生徒会活動、部活動、HR活動を通し、集団の一員としての自覚を深め、生徒一人一人の個性の伸長と調和のとれた豊かな人間性の育成を目指す。	生徒会活動・委員会活動、部活動など活躍の場を広げ、それぞれの活動の中で、自分の学校生活や社会生活について、見つけ・成長していく意識を培う。⑩⑪	B	B	・各活動、行事前に、集団の中での自分を見つめることを指導し、終了後には感じたこと考えたことを確認し、集団の一員としての自覚を促す。
		学校行事(晨光祭・クラスマッチ等)を通して集団の中での役割遂行の大切さを理解し、成就感を享受させる。部活動の加入率を向上させ学校に対する帰属意識を高め、幅広い人間関係の構築を目指す。⑩⑪⑫	B		
		HR活動や部活動を通し、生徒相互の連帯を深め、責任感、使命感を持ち、何事にも前向きな姿勢や素養を培い、自己有用感を高める。⑪⑫	B		
保健厚生	心身の健康増進に努め、知識と能力を育てる。	講演会などにより性教育、健康教育を推進する。②	B	B	清掃がきちんできていない箇所がある。学校全体として、清掃指導ができるようにしたい。
		心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。②③	B		
		個別相談等による健康相談活動(スクールカウンセラー等の活用)を推進する。③⑨	B		
		健康で安全な学校環境の整備に努め、公德心を育てる。	施設・設備の安全点検・管理を徹底する。⑩		
図書	本に親しむ習慣をつけ、生徒が利用しやすいように図書館の環境を整える。	防災組織の編制・防災避難訓練の実施により、非常時の安全教育を行う⑩	B	B	教務部の中で仕事を分担し、掲示物作成や蔵書の補充、図書委員会の開催、学校図書館の利用推進などを協力して行っていく必要がある。
		清掃用具の管理と清掃監督指導の徹底に努める。⑩⑫	B		
		情操を豊かにする本を整理し、閲覧しやすいようにする。⑫	B		
		生徒・職員の希望を考慮し、書籍を購入、整備する。⑤	B		
渉外	PTA活動の活性化を図る。	「図書館だより」を定期的に発行し、「おすすめ本」を掲示して、生徒の反応を確かめ、利用率の向上を図る。⑭	C	B	・さらにPTA総会、支部会での参加率を増やせるように協議・工夫を重ねていく。 ・PTAの予算が苦しいのであらゆる面で節約して行くようにしたい。 ・PTA農園、収穫祭、視察研修などの行事に渉外部以外の職員も積極的に参加してほしい。
		環境整備を行うとともに、幅広い分野の蔵書を増やし、授業やHRなどにおける図書館施設の利用を促す。⑥	B		
		各種行事(PTA総会・支部総会等)への参加率を高める。⑬	B		
事務	省エネルギー・省資源に努める。 学習環境の整備に努める。	各種委員会を活性化する。 進路委員会 = 企業・学校の見学及び研修を充実する。⑦⑬ 広報委員会 = PTAだよりを発行し、市内にも配布する。⑬⑭ 生徒指導委員会 = 挨拶運動、地域巡回指導を実施する。①②⑬ 学年PTA = PTA農園等で会員相互の理解や親睦を深める。⑩⑬⑭	B	B	・予算を有効活用し、学習環境の充実を図る。
		校内の破損箇所への迅速な対応と共に環境美化に努める。また、教育活動が円滑に進められるよう効果的な予算執行を図る。	B		
第1学年	基本的な生活習慣を確立させる。	挨拶や言葉使いなどの礼儀指導を徹底し、他者との関わり方を身に付ける。①②⑨⑩⑪	C	C	・学年で統一した指導を徹底
		遅刻や欠席、服装・頭髪等の乱れをなくすとともに、自己指導能力を育成させる。①②③⑨⑩⑪⑫	B		
	授業への取組を向上させる。	ぶれない指導で授業の準備や心構えなど、学ぶ態度と環境を整える。①②⑤⑥	C	C	・授業担当者との情報共有
		教科担当者と学年が連携し、個に応じた指導に努め、学業上の不適応を低減する。⑤⑥	C		
		授業の態度及び理解度などの情報を共有し、学習状況の改善に努める。③⑤⑥	C		

	進路意識を向上させる。	授業やホームルーム、特別活動、資格取得などあらゆる場面において進路に繋がる指導を徹底する。 ⑦⑧⑨	B	B	・進路ガイダンスを活用した進路指導の充実
		進路ガイダンスや校外学習などを実施し、職業意識と勤労観を高めるとともに、具体的な進路目標を設定させる。 ⑦⑧⑨⑮	B		
		スタディサプリにより自己点検を行いつつ、大学進学コーディネーターを活用して進学意識を高める。 ②⑤⑥	C		
	問題行動の未然防止に努める。	「道徳」や学校行事、特別活動などを通して、集団生活における規則や行動を理解させ、さらに仲間を支え思いやる心も育成させる。 ①②⑨⑩⑪⑫⑬	C		
		校内外巡視の励行、個人面談等の実施、家庭との連携と情報共有などを徹底し、些細な変化も見逃さない。 ②③⑨	B		
		問題行動への素早い対応を心掛け、生徒理解と情報の共有化に努める。 ②③⑨	A		
第2学年	基本的な生活習慣を確立させる。	状況や場面に応じた礼儀作法を徹底し、適切な他者との関わり方を身に付ける。 ①②⑨⑩⑪	B	B	・LHR等を活用して個に応じた指導を
		遅刻や欠席、服装や頭髮の乱れをなくすとともに、自己指導能力を高め醸成させる。 ①②⑥⑨⑩⑪⑫	B		
	授業への取り組みを向上させる。	授業の態度及び理解度などの情報を共有し、学習状況の改善に努める。 ②④⑤⑥	B	B	充実させたい。 ・進路意識の充実を図りたい。 ・生徒指導上の課題
		学習環境を整え、学ぶ態度を養い、ぶれない指導を実践する。 ②④⑤⑥	B		
		一人ひとりの特性を把握・理解し、個に応じたきめ細やかな指導に努める。 ④⑤⑥	B		
	進路意識を向上させる。	授業やホームルーム、特別活動、資格取得など、あらゆる場面・機会において進路へ繋がる指導を徹底する。 ⑦⑧⑨⑩⑪⑫	B	B	題がある生徒の進路選択と選考基準等の見直し。
		スタディサプリ等で学習状況を点検し、進路別コーディネーターと連携して個に応じた進路指導を展開する。 ⑥⑦	B		
		進路ガイダンスやインターンシップを実施し、職業意識と勤労観を高めるとともに、具体的な進路目標を設定させる。 ⑦⑧⑨	A		
	問題行動の未然防止に努める。	科目「道徳プラス」や学校行事、特別活動などを活用し、集団生活における規則や行動などを理解させ、帰属意識を高めるとともに、自己の言動に責任を持たせる。 ②⑨⑩⑪⑫	C	B	
		校内外巡視の励行、個人面談等の実施、家庭との連携と情報共有を徹底し、些細な変化も見逃さず、素早い対応を心掛けて生徒理解に努める。 ②③⑤⑥	B		
特別支援教育コーディネーター及び関係機関との連携を図り、発達段階や障害等に応じた支援や手立てを実施し、特別支援教育を充実させる。 ②③⑨		B			
第3学年	進路意識を向上させる。	授業やホームルーム、特別活動、資格取得など、あらゆる場面において進路へ繋がる指導を徹底する。 ⑦⑧⑨	B	B	・約9割の生徒が進路を決定できた。
		進路ガイダンスやインターンシップを実施し、職業意識と勤労意欲を高めるとともに、具体的な進路目標を設定させる。 ⑦⑧⑨	B		

第3学年	基本的な生活習慣を確立させる。	挨拶や言葉遣いなどの礼儀指導を徹底し、他者との関わり方を身に付ける。 ①②③⑨⑩⑪	B	B	・9割以上の生徒が校則違反や中抜けがなくなり落ち着いた生活を送れるようになった。
		遅刻や服装、頭髪等の乱れをなくすとともに、自己指導能力を育成する。 ①②③④⑧⑨⑩⑪⑫	B		
	授業への取り組みを向上させる。	ぶれない指導で授業への心構えや態度等を徹底する。 ⑤⑥	B	A	
		教科担当と学年が連携し個に応じた指導に努め、学業上の不適応を低減する。 ④⑤⑥	A		
問題行動の未然防止に努める。	校外巡視の励行、個人面談等の実施、家庭との連携と情報共有などを徹底し、些細な変化も見逃さない。 ①②③	B	B		
	問題行動への素早い対応を心掛け、生徒理解と情報の共有化に努める。 ③	A			
いじめ防止対策会議	未然防止への取り組み	授業、ホームルーム活動、特別活動など全ての教育活動全体を通して、生徒の自己有用感や共感的理解の能力を培い、自己指導能力を高める。 ②③⑩⑫	B	B	・見えないいじめがあることを常に意識しながら、生徒の学校生活を注意深く見つけ、指導を行う。 ・専門家の意見を取り入れる機会を増やし、職員全員が幅広い視点からいじめに対する理解を深める。
		教育相談と個別面談、さらに必要に応じてスクールカウンセラー等を活用し、教育相談体制を整え、生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。 ①③⑨	B		
	早期発見・早期解消への取り組みを徹底する。	いじめに関するアンケート調査を定期的に行う。また、保護者との連携を密にし、些細な兆候であってもいじめではないかとの疑いをもって対応し、早期発見に努める。 ③⑬	B	B	
		いじめを確認した場合、まず実態を把握し、被害生徒を守り通すことを第一とし、全職員が協力して被害生徒の心のケアに努める。また、加害生徒への対応についても毅然とした態度で指導する一方、生徒の人格の成長に主眼を置いた指導の徹底を図り、いじめを繰り返さないよう支援する。 ②③⑫	B		
	関係機関との連携を徹底する。	学校だけの対応では問題を解消することが困難であると判断した場合、速やかに警察、児童相談所、法務局等の関係機関に相談し、連携の徹底を図る。 ③	B	B	
	教職員研修の充実を図る。	実践的な研修を積極的に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消等に向けた技能の習得、向上を図る。 ③	B	B	
絶えず最新のインターネット環境等に関する研修を行い、教職員全体の情報モラルへの理解を深める。 ③		B			

評価基準 A : 大変よくできた B : よくできた C : 普通 D : やや不十分 E : 不十分